



図39 遺跡の位置  
5万分1地形図「新津」

内野遺跡 うちの 秋葉区七日町

内野遺跡は阿賀野川左岸の自然堤防上に立地している。小阿賀野川の現在の分流地点からは、南西に約一キロメートルである。遺跡の範囲には七日町集落を一部含むが、大部分は水田になっている。

平成九（一九九七）年、市道整備工事に先立って行われた試掘調査によって発見され、平成十年と十一年に新津市教育委員会が計二九四〇平方メートルを発掘調査した。調査部分は市道新町第七号七日町線の一部となっている。

発掘調査では、水田面から〇・七〜一メートルの深さで、井戸や溝・小穴などの遺構が多数見つかった。これらは二か所に分かれて集中していたことから小集落の一部だった可能性が高い。なお、見つかった三七基の井戸はすべて井戸枠わくがない素掘りすほりであった。

遺物は、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代のものが出土した。なかでも鎌倉・室町時代の出土品が特に多かった。鎌倉・室町時代の出土品は、日常生活に使用された食膳具や調理具・貯蔵具がほとんどで、中国や朝鮮で作られた陶磁器、国産の瀬戸美濃



図40 内野遺跡



図41 復元された鉄鍋 直径約29センチメートル

焼・珠洲焼などがあつた。陶磁器以外では砥石・茶臼・粉引臼、曲物の底板や板材・柱材、鉄鍋・刀子、鍛冶関連遺物などが出土した。また食用に解体された可能性のある犬一頭分の骨が出土した。

出土品のなかで注目されるものに、井戸から出土した鉄鍋がある。この鉄鍋は十五世紀ごろのもので、鑄型を使った鑄造で製作されている。通常、不要になつた鉄製品は回収され、溶かされて、別の製品にリサイクルされてしまうため、遺跡から出土することは少ない。内野遺跡ではリサイクルせずに井戸へ入れていることから、井戸に関する祭祀があつたことが指摘されている。井戸から鉄鍋が出土する例は県内でも四例ほどが確認されている。

現時点での発掘調査結果から内野遺跡の性格を判断することは難しいが、おそらく鎌倉時代から室町時代の集落であつたと考えられる。JR羽越本線以北の能代川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた満日地区には、内野遺跡以外にも中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・無頭遺跡など古代・中世を中心とした集落と推測される遺跡が埋もれている。